

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

国際社会や地域社会において、グローバルな視点で物事を思考し、思考した中から最善のものを判断し、判断したものを発信できる人材を育成する学校
— 国際社会や地域社会において持続可能な開発のための目標（SDGs）2030 アジェンダを実践できる人材の育成 —

2 中期的目標

国際社会・地域社会で活躍する生徒の育成という本校の目標の実現をめざす。

1 確かな学力の育成及び希望進路の実現

(1) 基礎学力の着実な定着

- ・1日7時間授業を行うとともに、知識習得型授業と探究型授業をバランスよく組み合わせる。
- ・大学や研究機関との連携による学習、体験型学習を数多く実施することにより、学習に対する関心・意欲を高め、知識・スキルを定着させる。

(2) 専門分野における活用力・探究力の向上

- ・研究指定等を積極的に活用し、知識・技能を活用する力の向上を図り、質の高い研究が行えるよう指導する。
- ・研究者・企業関係者等との連携を進め、評価・助言を積極的に受ける。
- ・校内外研修、語学研修、国際教育、国際交流等に積極的に取り組む。
- ・論文をはじめとする様々な形態のプレゼンテーションを行う機会を増やし、質の向上を図る。

(3) 全ての生徒の希望進路の実現

- ・生徒一人ひとりの1～3年次の学力等の伸長記録である「生徒カルテ」（平成27年度作成）を活用する。その指標に基づき、生徒の学力や学校生活等に係る意識について把握し、指導・支援する。
- ・土曜日の補習・講習等を計画的かつ生徒のニーズにあうように実施する。
- ・大阪大学を中心とした国公立大学現役合格者数100人以上をめざす。（H30：61人 R1：91人 R2：98人（卒業8クラス）R3：93人（7クラス））

2 豊かな人間性の涵養

(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成

- ・部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導を行い、生徒の自己管理能力を高めるよう指導する。
- ・すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援する。特にホームルーム指導や人権学習において計画的に指導するとともに、生徒の状況を的確に把握し、指導方法の工夫改善に努める。
- ・ICT機器等を正しく活用できるよう、活用ルール（平成27年度作成）に基づき計画的に指導する。

(2) 共生・共助の精神の涵養

- ・卒業生との連携協力を強め、社会貢献に取り組む人々たちによる講演や交流を行うとともに千里版人材バンクを設立し、活用を図る。
- ・千里フェスタに向けての協同的な研究により多様な仲間との価値の創造の大切さを学習させる。
- ・世界レベルでの人権感覚を磨き、多様性を重んじる精神を養う。

(3) 安全で安心な学校生活

- ・防災マニュアルを周知し、災害にも強い学校づくりに取り組む。
- ・教育相談体制を整え、支援を必要とする生徒に適切に対応する。

3 教員の指導力の向上

(1) 学習指導方法の工夫改善

- ・教材・資料・指導方法について教科において研究・交流を図り、統一・共有を進める。
- ・タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発と充実を図る。

(2) 先進的な教育に取り組むための研究及び研修の充実

- ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のためのPDCAサイクルを的確にまわす。
- ・授業アンケート及び学校教育自己診断を適切に活用し、指導と評価の一体化を図る。
- ・次期学習指導要領に則した教育課程の編成を行う。

(3) 働き方改革への適切な取り組み

- ・時間外労働の削減を図る。職員会議等で時間外労働の数値結果を連絡する。
- ・機能的・合理的な組織体制を構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】生徒の「授業についていけている」は77.0%、保護者は「各教科指導に満足している」62.9%、教職員は「各教科において、教材の精選・工夫、指導方法改善を行っている」は88.1%であった。研究授業及び教員勉強会を継続しており、さらに生徒・保護者の満足につながる改善を行ってまいりたい。</p> <p>【進路指導】生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」82.8%、保護者の「進路について適切な指導を行っている」72.1%に対し、教職員の「進路選択に向けてきめ細かい情報提供をおこなっている」は90.0%であった。新型コロナで従来の進路説明会等の開催が困難な中ではあるが、進路指導ブログを立ち上げるなど、さらなる情報提供に努めていく。</p> <p>【生徒指導】生徒の「指導は納得できる」は55.4%、保護者の「生徒指導の方針に共感できる」が80.3%、教職員の「社会規範を守り、倫理観を育む機会を作る」は70.0%であった。さらに生徒の自主性を重視し、心に響く生徒指導を行っていく。</p> <p>【学校運営】国際文化科生徒の「国際性を養う機会が多い」は78.9%、総合科学科生徒の「科学への興味を高める機会が多い」は84.7%、保護者の「学校は専門高校としての深い知識・技能について学ばせている」は89.8%であり、専門性の高い取り組みが評価されていると言える。また今年度はいじめへの対応の肯定的評価が生徒78.4% [75.6%] 保護者85.3% [35.4%] 教職員76.7% [61.5%] となった。加えて教職員の回答が100%となり、全員の意見が反映されるようになった。</p>	<p>第1回（7月5日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・52期生の進路状況について進路指導部から、及び新入生について両学科から説明 ・今年度の学校経営計画について示し、年度当初からの取り組み状況を担当者から報告 ➢ 現役国公立大学への進学実績及び生徒の満足度から素晴らしい結果と言える。 ➢ 千里高校の魅力について、中学生へのアピール方法を工夫してはどうか。 ➢ 防災教育のさらなる充実、働き方改革への取り組みについて要望をいただいた。 <p>第2回（10月27日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況評価の検討、1人1台端末活用の工夫、教員授業研究会、探究・科学探究の中間発表会等について報告 ➢ 評価方法や評価基準については一般的に関心も高く疑問点も多い。評価の基準を示し被評価者に不公平感が出ないように、担当者や講座ごとの基準統一を図ってほしい。 ➢ 端末の活用については、千里高校は早くから実現・活用を重ねていることから、独自の活用に期待する。 <p>第3回（2月25日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 研究授業の取り組みも継続しており、授業アンケートの平均も高い。ICTの活用も活発で、プロジェクトを使った教科指導も充実しているようで喜ばしい。 ➢ 生徒指導に納得できていない生徒の割合が高い。教員が考えるよりも生徒に直接意見を聞く取り組みも必要ではないか。生徒の意見をヒントにしてはどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価(評価指標欄内の「 」は学校教育自己診断の項目)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
確かな学力の育成及び希望進路の実現	(1) 基礎学力の着実な定着 (2) 専門分野における活用力・探究力の向上 (3) 全ての生徒の希望進路の実現	(1) タブレット等の積極的な活用により授業の充実を図り、全ての生徒の学力の伸長をめざす。 (2) ・課題研究(「探究」「科学探究」)を関係組織と連携し、専門分野における探究力を高める。 ・外部人材からの評価・助言を受け、課題研究指導プログラムの研究開発を伸展させる。 ・SSH及びSGH中間発表時等における両学科間交流を図る。 ・校内外の研修及び国際交流教育の質向上と効率化を促進する。 ・生徒の様々な形態のプレゼンテーションを実施する。 (3) ・3年間を見通した総合的指導計画(学習指導・進路指導・生活指導等)、及び生徒カルテ等を活用し、指導・支援する。 ・補習・講習等について効果的でニーズにあうように立案計画する。	・「私は授業についていけている」80% [78%] ・「ICT機器を授業等でよく使う」90%以上 [92%] ・『探究』『科学探究』は知的好奇心を高める」80% [77%] ・海外研修5回実施 ・校外プレゼンテーション参加数70人 [50人] ・国公立大学合格者 120人[140人] ・海外大学進学希望者100%実現 [100%] ・「希望する進路を実現するための講習等が充実している」75% [73%]	・「私は授業についていけている」77% (△) 授業力向上の取組を継続して行っており、生徒の実態把握にさらに努める。 ・「ICT機器を授業等でよく使う」93% (○) ・『探究』『科学探究』は知的好奇心を高める」は72% (△) 課題研究活動については生徒の設定課題を活かす形で実施しており、指導法の改良に取り組む。 ・海外研修の代替として夏季校内語学研修、オンライン等による海外交流を4回実施(一) ・校外プレゼンテーションには延べ77名の生徒が参加(◎) ・浪人生が少なく国公立大学合格者117人(△) ・海外大学進学説明会参加者15名(一) ・「講習の充実」67% (△) 改めてニーズの把握に努める。
豊かな人間性の涵養	(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成 (2) 共生・共助の精神の涵養 (3) 安全で安心な学校生活	(1) ・部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導する。家庭学習時間確保の把握と指導を行い、生徒の自己管理能力を高める。 ・タブレット等をルールに基づき正しく活用できるよう計画的に学習会を実施する。 (2) ・すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導する。 ・HRで外部人材の講演等を活用し、人権学習等を充実させ、人としての在り方生き方を学ぶ道徳教育を推進する。 ・社会貢献に取り組む卒業生や専門家による講演及び連携協力を推進する。 (3) ・自身の健康管理と防災教育による危機管理意識の向上を図る。 ・研修の充実やスクールカウンセラーとの連携により、不安定な生徒のケアを図る。	・「家庭学習する時間を確保できている」70% [68%] ・「千里高校に入学してよかったと思っている」80% [76%] ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上 (R2: 86%) ・「人権について学ぶ機会がある」85%以上 [85%] ・「災害時の行動を具体的に知らされている」70% [66.9%] ・非常時に備えた安否確認方法の100%確立 ・「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会がある」80%以上 [82%] ・「悩みに応じてくれる先生がいる」70% [66%]	・「家庭学習時間の確保」64% (△) 家庭学習時間を含む生活実態についての把握をこまめに行い、部活動等との両立等に努めるとともに指導を行う。 ・「千里高校に入学してよかったと思っている」69% (△) 生徒の意見を活かし、満足度の上昇に取り組む。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」83% (△) 「卒業生と語る会」の実施等によりキャリア教育に取り組んだが加えて進路講演会等の充実を図る。 ・「人権について学ぶ機会がある」93% (◎) ・防災マニュアルを改訂・周知した。「災害時の行動を知らされている」73% (○) ・生徒・保護者ともに非常時の安否確認の方法は100%確率(○) ・「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会がある」85% (○) ・「悩みに応じてくれる先生がいる」65% (△) 自己診断における「相談できる先生がいる」は昨年度比1.5ポイント上昇、「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」も昨年度比3.1ポイント上昇しており今後も教育相談機能の充実を図っていく。
教員の指導力の向上	(1) 学習指導方法の工夫改善 (2) 先進的な教育に取り組むための研究及び研修の充実 (3) 働き方改革への適切な取組み	(1) ・タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発を促進する ・教科において指導方法・評価について、統一・共有化を進める。 (2) ・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のためのPDCAサイクルを的確に回す。 (3) ・時間外労働の削減を図る。職員会議等で時間外労働の数值結果を連絡する。 ・機能的・合理的な組織体制を構築し、ICT環境を充実させ、個人情報保護にも留意する。	・授業研究ライブラリーの制作 ・「授業で力をつけることができる」85%以上 [86%] ・「学習の評価について納得できる」85%以上 [86%] ・新学習指導要領に対応するために年間の研究テーマを決めて研究授業及び研究協議を12月に実施する。 ・時間外労働時間を1割削減する。 ・ICT活用による業務の合理化を図るとともに個人情報保護にも留意する。	・本年度も授業研究会を公開し、ライブラリー化した。(○) ・「授業で知識が身についた」88% (○) ・「学習評価に納得できる」82% (△) 新学習指導要領の実施に合わせ、より分かりやすい学習評価についての説明の機会を設ける。 ・授業研究会を公開実施(○) 加えて観点別評価に関する教員間での試行や周知、内規の改定などを実施した。 ・32%増加(△) ・常勤職員へのタブレット端末の配備を完了し、授業についてはもちろん、行事や一部の分掌業務等においても活用した。(○) その際本校セキュリティポリシーを再度示し、個人情報保護について注意喚起した。